

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第2回弘前市社会福祉問題対策協議会
開 催 年 月 日	平成31年2月8日（金）
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時 から 14時15分まで
開 催 場 所	弘前市役所市民防災館 3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	葛西 久志
出 席 者	<p>会長 葛西 久志 委員 秋山 邦男 委員 牛田 泰正 委員 柳田 光祥 委員 牧野 俊一 委員 三上 ナツエ 委員 吉本 睦子 委員 中田美保子 委員 森山 正 委員 小野 穰 委員 工藤 悦</p>
欠 席 者	委員 小島 康司 委員 相馬 齋弼 委員 長尾 春夫
事 務 局 職 員 の 名 氏	<p>健康福祉部長 外川 吉彦 健康福祉部理事 須郷 雅憲 福祉政策課課長 今 敏行 同課長補佐 秋田 美織 同主幹兼総務係長 田澤 千佳 同専門員 須藤 悟 同政策調整担当総括主査 工藤 麻子 同総務係主事 千葉 勝博 同総務係主事 小枝 純暉</p>
会 議 の 議 題	<p>報告 (1)弘前市地域福祉計画（案）の策定状況について (2)福祉避難所開設訓練の実施について (3)要配慮者の防災マニュアル概要版について</p>
会 議 結 果	別紙会議録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	平成30年度第2回弘前市社会福祉問題対策協議会資料

<p>会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>1. 開会</p> <p>2. 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3. 報 告</p> <p>(1) 弘前市地域福祉計画（案）の策定状況について (2) 福祉避難所開設訓練の実施について (3) 要配慮者の防災マニュアル概要版について</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局から、報告（1）弘前市地域福祉計画（案）の策定状況について、資料1、2、3に基づき、第1回協議会からの変更点について説明した。</p> <p>【主な質疑応答】</p>
<p>委員</p>	<p>第1回目の資料に比べブラッシュアップされていると思う。ただ、計画の中の図に見づらい点を感じた。総合計画と同内容の図を使用していると思われるので、総合計画と整合性を取ったほうが良いと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画の図と整合性を取って行く。</p>
<p>委員</p>	<p>第3章の基本目標1にある「支援により生活保護を受給しなかった割合」の評価指標について、前の素案にあった文面のほうが判り易く良かったと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>指標に関しては、次期総合計画と整合性を取るため、素案の時から表示が変わったもので、総合計画の指標を採用して変更したもの。</p>
<p>事務局</p>	<p>続いて、報告事項（2）福祉避難所開設訓練の実施について説明した。</p>

委員	福祉避難所の数と受け入れ人数は何人か。
事務局	受け入れ総数は470人ほどで、要支援者名簿登録者数は約1,800人ほどである。大規模災害になった場合には、協定を締結した施設の状況を勘案していく必要もあり、協定締結施設の状況を確認しながら、要支援者の方々の福祉避難所への移送について検討をしていく。
委員	このような訓練を行っているということを障がいを持った人たちにも知ってもらうことで周知が広がって行くと思う。このような訓練は続けて欲しい。
事務局	福祉避難所の周知については、災害が起きて直ぐ開設できるものではないため、障がい者の団体や、高齢者を主に担当している、包括支援センターなどを通して周知を図って行きたい。
委員	要支援者の避難場所として福祉避難所があるのだと感激したが、大災害になれば、移送は自衛隊にでも頼まないと大変だと思う。福祉避難所は、障がい者や高齢者を中心に考えているようだが、授乳中の母子にもさまざまな問題が起きると思う。高齢者だけの施設でなく、小学校など避難所の一室を使って、個人用の場所として設置して行けばどうか。
事務局	小学校の避難場所に、大勢の方がいる所が苦手な方や、妊婦をはじめ乳幼児を抱えた方のために、別室を福祉コーナーなどの名称で準備する方向で担当課が検討している。
会長	福祉避難室という構想ではなかったか。
事務局	福祉避難室とか福祉コーナーなど名称がある。担当課では、別室にしたほうが良いという方々のための場所を準備する考えがあると聞いている。
委員	人間というものが、身の危険を感じた時、どういう行動をとるのか、消防関係者の話として、火災の時人間は、今、来た方向に戻ろうとする本能がある。 人間が考えるシステムというものを考えるとき、次から次へとシステムへの対応が増えてくる。システムを追求すると、最後は無駄なものをどう省いてゆくかが勝負になると思う。

会 長	<p>今まで三回、訓練をしてきたと思うが、これまで変化が見られたか、また開催場所についてどうか。</p>
事務局	<p>訓練施設については、初回が岩木地区の特別養護老人ホーム松山荘、2回目が文京地区の特別養護老人ホーム静光園、3回目が福村地区の福寿園であった。それぞれ、田園地区、市街地、新興住宅地、という環境の中で訓練を行った。</p> <p>市の事務局は福祉政策課で同じだが、訓練に参加した市職員は、その都度替わっているため、一からの積みなおし状態である。参加した職員の感想として、参加してみると、自分にとっては良い経験になった、という感想があった。</p>
会 長	<p>1回目参加し見学させてもらったが、福祉避難所、福祉避難所開設までのスピードが遅い。いちいち市の本部と連絡を取って許可を取ると、開設までの時間がかかりすぎていると感じた。現在も同じなのか、変化があったのかを聞いてみた。</p>
委 員	<p>私は、大手のファーストフード店のマニュアルを創ってきたが、最初はカタログ型で文章化されシステム化されたものだった。今のマニュアルは、マンガのように判り易いものになっている。具体的な事例の時にどうするか、解説・説明でなく、絵を見れば直ぐ解るように表現されたものが、「いざ」という時に役に立つと思う。何か起きた時に、これが最後のマニュアルとすれば、重要なポイントは大きくするなり、色を変えるなりして何か工夫や配慮が必要だと思う。</p>
事務局	<p>報告事項（3）要配慮者の防災マニュアル概要版について説明した。</p> <p>このマニュアルについては、ご意見があればその都度いただいております、次回のマニュアル更新時にご意見を反映させていきたいと考えている。このマニュアルが決定版で、未来永劫、この形で行くという考えではない。</p>
委 員	<p>私たちの会は、いろんな障がいを持った人がいる。行政としては、こういうことをやっていただければ、このようなマニュアルについて紛失する人が居るかも知れない。マニュアルが無くても、とにかく、命を助けるんだという、ちゃんと知っている人が居れば、その人がこの人に間違いのないように言っても</p>

<p>委員</p>	<p>らえる。その人をその人だと証明するものが無いと行政は時間と手間がかかる。行政は何もなくても助けることができるようお願いしたい。</p> <p>私が老人のスポーツ大会であいさつするとき、参加者へ「高度成長時代に、残業もいとわず、自転車で走り回った、あの働きが、今の繁栄を創ったのであって、今更、邪魔にされることはない。皆さん、自信を持ってこの社会は自分たちが作ったんだという気持ちになってください。」と呼びかけた。</p> <p>また、PTAの役員をしていた頃、ある保護者から子育てについて相談を受けた。子どもが親の言うことを聞かない、というものであったが、その方の話を聞いて、戦後、高等教育を受けて、立派な人間になって、立派なところに勤めて、高給取りになるという、その路線でしかものを考えられなくなってきたと感じた。</p> <p>今こそ、お年寄りの時代がやってきた。若いお父さんお母さんに「よく頑張って子育てしている。」と褒めて、子育ての姿を微笑んで見守ってあげることが年寄りの仕事だと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>自宅で亡くなっている独居老人の方が増えてきたと感じている。このことについては、地域福祉計画の中にも、地域での見守りと助け合いについてきちんと書いてあり、これは本当に良いことだと思う。これを具体化して行くためには、民生委員のなり手が少なくなったというようなことを、地域包括ケアシステムと緊密に連携していくなど全体的に考えて行かないと、重要な問題点となると感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>私の経験では、外食産業でトイレはきれいに衛生的にしましょうと指示はするわけです。そこで働いている人は、皆、解っています。でも、実際、忙しい時に一日終わって帰る時にはトイレは汚れている。外食産業では、20年前からトイレにチェック表を作って3時間ごとに、誰がチェックしているのか名前を書かせて管理している。その管理がすごく重要だと思う。この計画も、うたい文句は素晴らしいが、チェックシステムが無いと絵に描いた餅だと思う。</p> <p>前回、マニュアルを作るのはいいが、それをチェックする、スーパーバイザーのような人を置かないと機能しないと思うと述べた。今の話のように、独居老人がいるのであれば、その人</p>

事務局	<p>たちを確認しましょう。週に1回、月に1回なり、1日に1回なり、それを確認するシステムが必要だと思う。</p> <p>一人住まいの世帯が増えているということは確かなことで、民生委員の方にはご苦勞をおかけしている。その負担を軽減するため、民生委員協力員制度というものを創って民生委員をサポートできる体制を作っている。民生委員制度を維持するためにも、なり手になっていただく方が必要になってきている。推薦母体である地域の町会組織の体制強化も市全体として取り組んでいくこととしている。その他にも、公民館活動の活性化や、子どもが地域への愛着を持てるような教育を目指すということで、現在、総合計画の策定を進めているところであり、総合的に地域共生社会に向けた体制作りに取り組んでいきたい。その中で、成果指標について示しているが、総合計画の中で、毎年、チェックしていく。</p> <p>皆で、それぞれ意見を出し合い、より良い方法を目指して行きたいと考えている。ぜひ、皆さんにもご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>孤独死の問題について、民生委員や包括支援センターの見守りとか話が出るが、毎日訪問しているわけではなく、2週間に1回とか、状態によって1週間に1回の時も1か月に1回とかあります。孤独死を無くしようと思ったら、独居であっても、身内や親せきの人が連絡してみるとか、お隣さんが訪問しなくても、さりげなく家の明かりを確認するとか、お隣さんがダメであれば、友人がチェックするとか、そういうことが地域共生社会に繋がるし、孤独死の予防に繋がると思う。</p>
事務局	<p>4 その他について その他、協議会の今後のスケジュール等を説明。</p> <p>5 閉 会</p>
その他必要事項	なし